

霧島 普段着の旅 満喫

「霧島市のごを知ってもらいたい」。同市住民が旅程を企画提案し、全国から参加した観光客を地元の住民とともに添乗員として迎え、同市の穴場を中心に案内する試みが、四日まで二泊三日の日程で行われた。典型的な観光ツアーでは味わえない普段着の旅を参加者二十人が堪能した。



芋焼酎の飲み比べを楽しむ観光客 =霧島市隼人町内の山下酒店

画廊や主婦レストラン、駅舎 地域交流拠点を巡る

地域で活動する中高年を「創年」と呼び、その

は芋焼酎の飲み比べ。参加者は甘辛口、くせの強

「たまり場」づくりを提唱する「NPO法人全国生涯学習まちづくり協会」の運動の一環。同市隼人地区出身の福留強同協会理事長が「たまり場は観光資源にもなる。まず霧島の魅力を知ってもらおう」と、大手旅行業者と連携、全国に先駆けて行った。

旅は、協会員で同市のまちづくりに携わる植村春人さん（NPO霧島自然ガイドクラブ）と山内麻生さん（同市教養課）が演出。訪問先から宿泊場所、バスの手配まですべて手掛けた。作品展示やコンサートなど、催しも行うギャラリー「南風人館」、主婦仲間が経営するランチバイキングが人気の「Waiwaiアトリエ」、JR霧例川駅」など、二人が地域

めぐりや交流の拠点と認められたまり場を中心に案内。宿泊ホテルロビーでの「霧島九面太鼓」の紹介・実演も組み込んだ。隼人地区の山下酒店で

説明に耳を傾け楽しんだ。北九州市の古川雅子さん（左）は「土地をよく焼酎もおいしい」と満喫

外国人接客任せて

指宿旅館 従業員ら 英語劇で研修成果披露

指宿市のホテル・旅館従業員ら十八人が四カ月間、英会話と異文化を学んだ。時遊館COCCOはしむれで六日あった修了式では、英語劇で成果を披露、外国人客のもてなしに自信を深めた。

講座は同市観光協会が主催。二回目の今回は、二月から五月にかけ週一時間、英会話や異文化間コミュニケーションを手がけるサウスコーストクラブ（同市湯の浜二丁目）のアンドリュー・マレルさん（三）と山下みわさん（四）が指導した。

文化が異なる人々とのコミュニケーションと自己表現能力の上達を重視。身ぶり手ぶりだけでなく意思伝達したり、英会話で太鼓のリズムに乗せた



英語劇で成果を披露するホテル従業員ら 時遊館COCCOはしむれ

りするなど、ユニークな指導法もあったという。英語劇は、指宿のホテルでの接客を想定。外国人客に対して、一人一人がフロントや接客係として応対。砂むし温泉や開聞岳、そつめん流しなど「たまり場は、鹿児島全域にある。霧島以外でも今後開催したい」と話した。